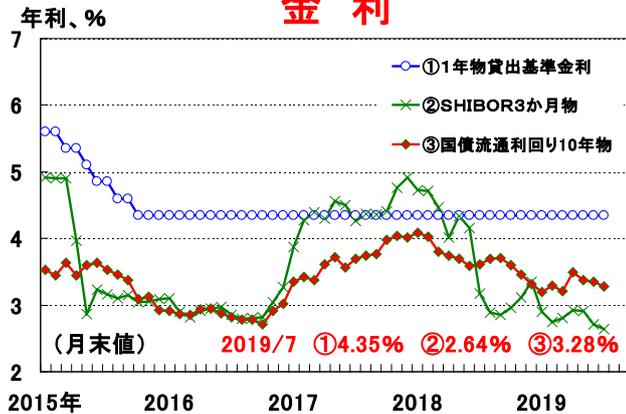


グラフで見る中国経済 2019年8月号(No. 123)

4～6月期の中国の実質GDP(国内総生産)は前年比+6.2%(前期は同+6.4%)と、成長率が再び低下した。4～6月期には、通関輸出が同-1.0%(前期は同+1.4%)と減少し、成長率を押し下げた。米国の対中貿易制裁が響いた。同期の固定資産投資も同+5.5%(前期は同+6.3%)と2四半期連続で減速した。内訳をみると、製造業が1～3月期をさらに下回る低い伸びにとどまり、また公共インフラ関連も低い伸びで推移している。一方、家計部門では、4～6月期の小売売上が同+8.5%(前期は同+8.3%)と伸びをやや高めた。

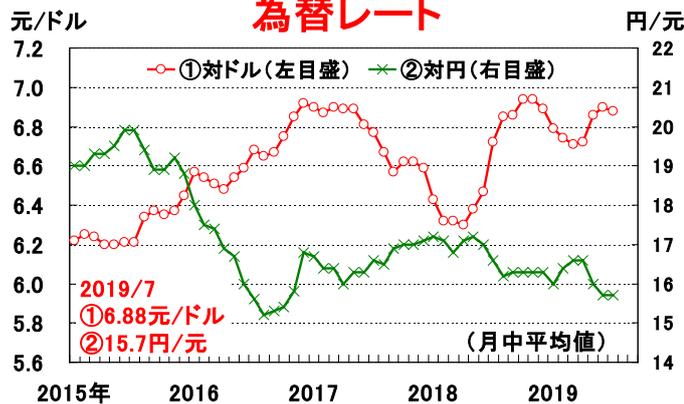
金利



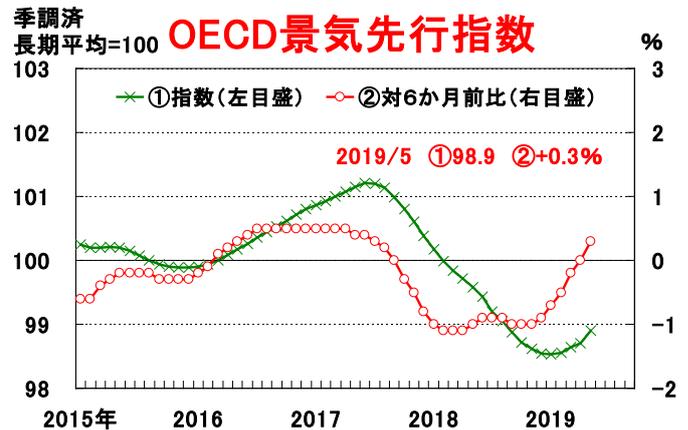
実質GDP



為替レート



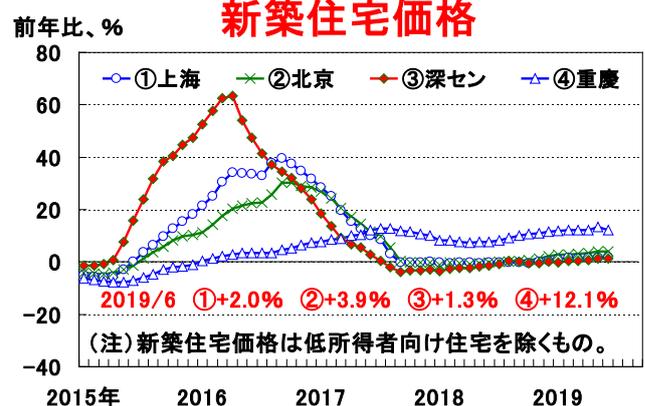
OECD景気先行指数



上海総合指数(株価)



新築住宅価格



【今月のトピック:設備稼働率は上昇】中国国家统计局の発表によると、中国の鉱工業の設備稼働率は2019年4～6月期に76.4%(前期は75.9%)と4四半期ぶりに上昇した。設備稼働率を業種別にみると、特に非金属鉱物製造業(1～3月期:67.4%→4～6月期:70.8%)や石炭採掘業(1～3月期:68.2%→4～6月期:70.7%)の上昇が目立った。同期の鉱工業生産(1～3月期:前年比+6.4%→4～6月期:同+5.6%)が減速したものの、習近平体制の指導を受けて、企業間の吸収合併が推進され、過剰設備の整理が進んだことが背景にあるとみられる。

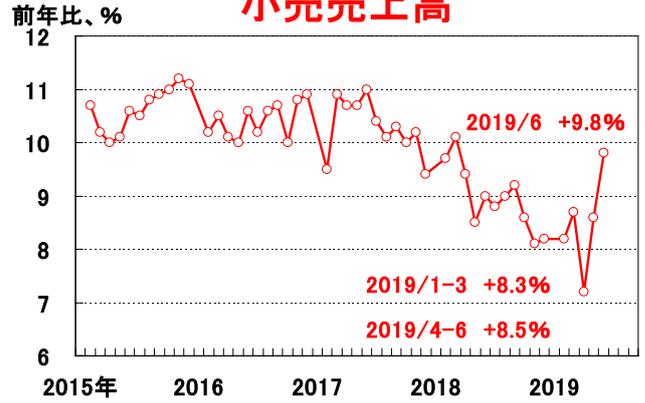
(出所) 中国人民銀行、中国国家统计局、ブルームバーグ

本レポートの目的は情報の提供であり、何らかの行動を勧誘するものではありません。本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。ご利用に関してはお客様ご自身で判断くださいますようお願いいたします。本レポートは情報提供のみを目的として浜銀総合研究所・調査部が作成したものであり、横浜銀行との何らかの取引を勧誘するものではありません。

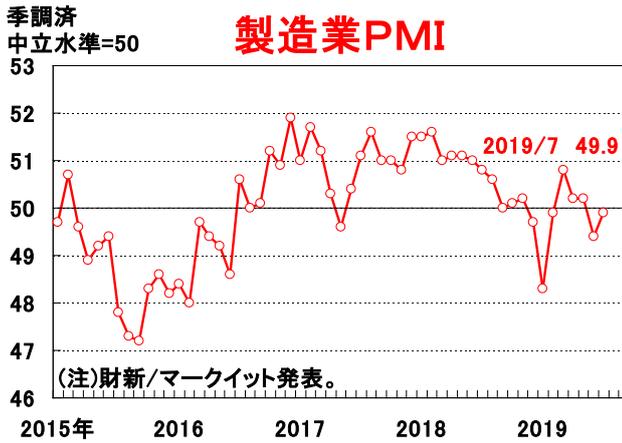
鉱工業生産



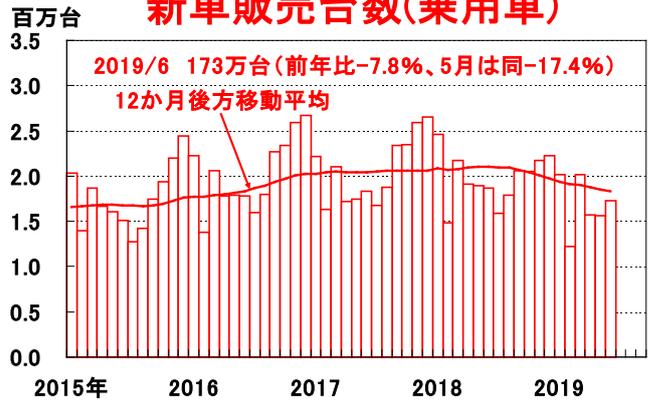
小売売上高



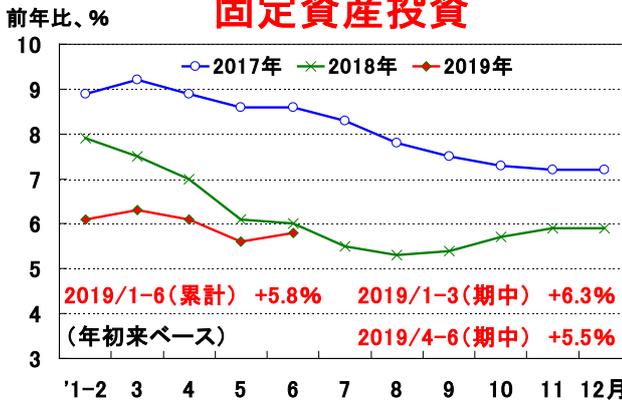
製造業PMI



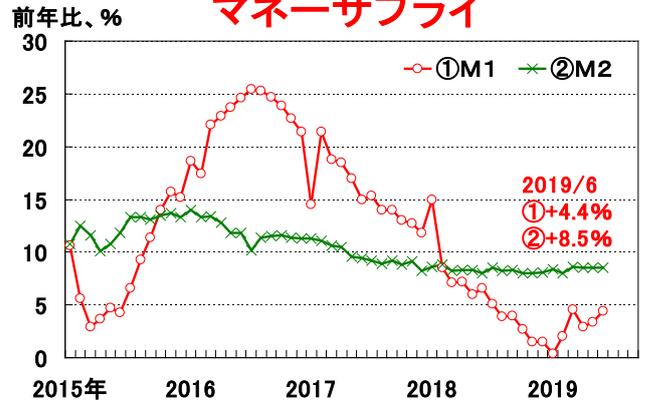
新車販売台数(乗用車)



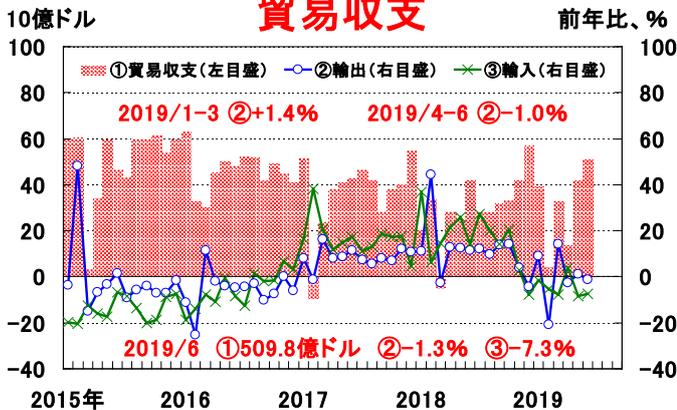
固定資産投資



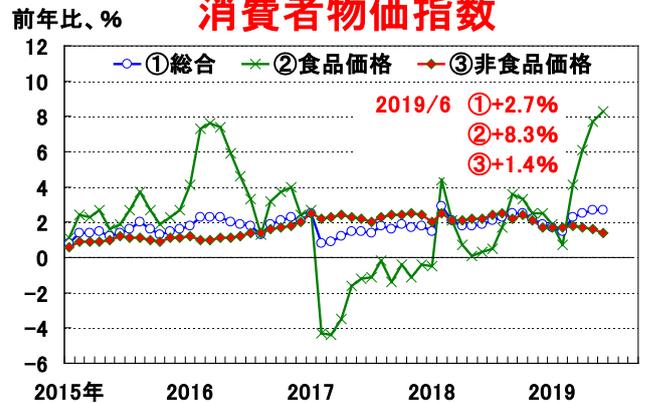
マネーサプライ



貿易収支



消費者物価指数



(出所) 中国国家统计局、中国海関総署、中国商務部、中国汽車工業協会、中国物流購買連合会、中国人民銀行、CEIC、ブルームバーグ

本レポートの目的は情報の提供であり、何らかの行動を勧誘するものではありません。本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。ご利用に関してはお客様ご自身で判断くださいますようお願いいたします。本レポートは情報提供のみを目的として浜銀総合研究所・調査部が作成したものであり、横浜銀行との何らかの取引を勧誘するものではありません。